

本日のテーマ

人権の再定義がわかる

【人権は常に再定義されるもの】

アメリカ ^{どくりつせんげん} 「独立宣言」 (The Declaration of Independence) は 1776 年、フランス ^{じんけんせんげん} 「人権宣言」 (Déclaration des Droits de l'Homme et du Citoyen) は 1789 年に宣言されました。

ただ、これらの宣言が ^だ 出されたことで、「^{ばんにん じんけん} 万人の人権」 (human rights for all) が ^{ほしょう} 保障されたかといえ
ば、まったくそうではありませんでした。

アメリカでは ^{なんぼくせんそう} 南北戦争 (The Civil War) が ^お 終わった後に ^{のち どれいせいど} 奴隷制度 (slavery) が ^{はいし} 廃止 (repeal) さ
れ、1964 年には ^{こうみんけんぽう} 公民権法 (the Civil Rights Act) も ^{せいりつ} 成立しました。

しかし、2020 年の ^{げんざい} 現在に至っても、いまだに ^{いた} 人種差別が ^{じんしゅ さべつ く かえ} 繰り返されていて、BLM (Black Lives
Matter) が ^{てんかい} 展開されています。

^{たし} 確かに、「^{どくりつせんげん} 独立宣言」においては「^か すべての人の人権」が保障されると書かれました。

しかし、「すべての人」という ^{ことば} 言葉の中に、^{そんざい} アフリカン・アメリカン (African-American) の存在が
含まれていませんでした。

だから、^{しみんうんどう} 市民運動を ^{く ひろ} 繰り返すことによって、「人権」という言葉を ^{じったい か ほんどう} 実体化 (本当のものにする) するこ
とが必要 ^{ひつよう} だったのです。

これは、「女性の権利」(women's rights) についても同様です。

フランス「人権宣言」には「人民 (homme) と市民 (citoyen) の権利」が書かれました。

しかし、「人民と市民」という概念 (idea) の中に、「女性」は含まれていませんでした。

このことは、オランプ・ド・グーシュ (Olympe de Gouges) という人が問題提起 (raise an issue) しました。



彼女たちは「女性の人権」というものを宣言し直すことで、「人権」を再定義 (redefine) する必要があったのです。

フェミニズム (feminism) の歴史のなかでは “womanism” という言葉が知られています。

1980 年代に「女性の人権」という概念 (concept) の定義がおおよそ決まりました。

しかし、その定義には移民 (immigrant) やいわゆる有色人種 (non-white races) の女性が含まれていないことが問題でした。

そこで、“womanism” という言葉を使って、女性の人権をより普遍的 (universal) なものとして再定義しました。

このように、語り落とされる存在 (exclude members) に絶えず目を向けて、「人権」は再定義されました。

人権の再定義は、いまでも続いている「未完のプロジェクト」(Ein unvollendetes Projekt) なのです。

★人権の再定義について、^{まな}学んだことを書きましょう。また、あなたが「再定義する必要がある」と思
う権利の^{ないよう}内容についても、書きましょう。
